

案件1 令和8年度予算編成について(財務部)

<概要>

令和8年度予算編成について報告

- ・一般会計については総額489億300万円で昨年度比12.2億円の増額となり、過去最大の金額である。特別会計については6,000万円増額となった。
- ・歳入について、市税は180億円台で過去最大の金額である。学校給食材料費徴収金は、無償化の動きから大幅減となっているが、国庫支出金として給食費負担軽減交付金と物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金が計上されている。
- ・歳出について、人件費、物件費、管理経費の増額が見られたが、各所属が財源確保に取り組んだ結果、予算案を作成することができた。

<会議での結論>

了承

【主な意見】

- ・市民からの寄附やクラウドファンディング、企業版ふるさと納税も意識しながら、今後も財源確保に努めていただきたい。また、事業への投資がどのように効果を生み出すか、経済効果等も含めて各部局で検討してほしい。
- ・各部局において、予算執行時にはSNSに加えて、記者発表や投げ込み等の情報発信を行っていただきたい。

案件2 令和8年度いこま考座について(経営企画部)

<概要>

- ・令和7年度は10の部がそれぞれのテーマでいこま考座を開催した。
- ・それぞれの参加者数は3名から31名程度であり、延べ88名が参加された。
- ・アンケートは延べ56名が回答し、全員が説明について「よかった」または「まあまあ良かった」との回答であった。
- ・資料内容については88%が好意的な回答であったが、11%が「あまり良くなかった」との回答であった。
- ・進行については89%が高評価であった。
- ・令和8年度はテーマ別に各部レベルで行い、【広報面】では仕事紹介・事業説明をホームページにアップし、【広聴面】では広い視点での施策説明について、ステークホルダー等を対象に行う。
- ・いこま考座の広報紙やSNSでの周知、公募市民等への案内は引き続き広報広聴課が行う。

<会議での結論>

了承

【主な意見】

- ・市民のニーズがいこま考座の内容と合致しているのかが気になった。また、いこま考座の実施方法について枠組みが設けられているが、各部の実情に応じて、ある程度自由に実施する方法が望ましいと思う。制度自体をみんなでもっと話し合えばいいと思う。
- ・広報と広聴を同時に行うことが難しかった。また、部・課の仕事内容によって、市民が知り

令和8年2月16日（月） 10:00～11:50

たいというニーズが異なるので、まずホームページで仕事内容を紹介した上でワークショップ等への参加者を募る必要がある。

- ・施策に対する市民のモニタリングが不十分であることが課題である。そういった点で、いこま考座は能動的に、各部の仕事の全体像に対してモニタリングしてご意見をいただく手段の一つだが、より効果的な手法があるのであれば、今後他の手段も検討する必要がある。
- ・広報と広聴を同時に行う難しさはあったが、市民に仕事内容を聞かせることができよかった。一つのテーマから幅広く施策を知ってもらうこともできたので、部の仕事をPRすることに活用してもらいたい。
- ・施策について意見を求めるためであるなら、目的と求めたい事業の概要・課題について事前に周知する方がよいのではないか。
- ・各部局の仕事内容や実施時期にはバラツキがあるので自由度を持たしてもらえるのはありがたい。
- ・いこま考座の取組について、様々な意見を活かして改善していく必要がある。
- ・ニーズが少ないことは理解しているが、令和7年度は各部で様々な工夫によって実施していただき、参加してよかったとの声も多い。ワークショップ等の実施手法に応じて、臨機応変に広報・周知に力を入れていきたい。

案件3 その他

<概要>（教育部）

- ・生駒南小学校・中学校の基本設計が完成しつつある。地域と共にある学校として、生涯学習施設との連携や、学校空間の地域福祉、防災等への活用等、各部の事業の中で活用できるところはないか、ヒアリングに伺うので協力をお願いしたい。

<会議での結論>

了承

【主な意見】

- ・学校を核とした地方創生のモデルケースとして、様々な分野にわたって議論すべきことがある。各部でも協力を願いたい。